

# 混沌とした中から

## 懐かしいパソコン雑誌

久しぶりに混沌とした話を。

手元にある最も古いパソコン雑誌1980年3月号の月間「ASCII」です。本当はもっと前から購入はしていた（確かASCIIの創刊第6号の1977年12月号ぐらい）のですが、手元に残っているのはこれが最も古いです。実はこの頃の雑誌（例えば他にI/Oなど）は例えばASCIIの場合は「エンサイクロペディア・アスキー」といって年1、2回ベストセクションといったまとまったものを出版していたのです。それを4冊ぐらい購入していたもので、1980年というのは大学の卒業の年なので残っていたようです。しかし1980年といえば今から26年前、その頃生まれたのと働いているわけですからいぶんたったものです。という話は別にして、この頃のパソコン雑誌は、自分で入力するプログラムやハードの自作が記事の多くを占めています。このごろのパソコン雑誌にプログラムが載ることはなく、新しいOSがどうか、新しいOfficeがどうか、次に出るPCの性能はということが中心ですが、この頃のものには自分で入力するプログラムが乗っています。ところでこの頃のパソコンですが、NECの「PC-8001」がすでに発売になっています。シャープが「MZ-80K」のクリーンコンピュータ（何がクリーンなのかという話にもなるのですが、このPCにはカセットテープ装置組み込んであり、コンピュータ言語（この頃までOSという話にならないので）をテープから起動時に読み込む形になっているため、テープを変えればいろいろなものに使えるという意味のようです）、日立が「ベーシックマスター」などがありました。外国製品としてはアップルが「APPLE II」を出していましたし、コモドール（こんな会社があったのです）が「PET」をアタリ（こんなのもありました）が「ATARI 800」を出していました。パソコン雑誌の話をする予定がその頃のパソコンの話になってしまいましたが、この頃のパソコンで動くものとしては「BASIC」となります。このごろのパソコンは立ち上げればWindowsがOSとして起動しますが、アプリケーションのソフトを入れなければ、おまけでついてくるソフトを使わなければただの箱になってしまいます。プログラムなんて作ることはできません。「プログラムは誰でも作れるのですか」と聞かれそうですが、80年ごろのコンピュータは大体BASICが標準で動くようになっていきます。この2年前になるとBASICすら動かない（大体画面表示が標準でついていないのですから）という状態で、ASCIIの創刊第2号と第4号には6800用の4kBASICが「THE FLOPPY ROM」として付録になっています。28年前の「THE FLOPPY ROM」って何だと思います。実は「ソノシート」なのです。レコードがCDになって久しいのですが、ソノシートを理解してもらうためにはこのレコードを認識してもらう必要があります。だんだんこの当時の話をするのにその周辺の話をしなければならぬので大変なのですが、ソノシートはレコードをそのまま薄い樹脂で作ったものと考えてください（レコードを理解できない人は置いていきます）。この当時の子供雑誌にはテレビ主題歌の入ったものなどがついていました。ではこれをどうコンピュータ（何故PCと書かないかといえばPCはパーソナルコンピュータでこの頃のものはいえなボードコンピュータが多かったためです）に取り込むかですが、MZ-80Kのところではカセットテープ装置を書きましたが、この当時の外部記憶はテープが中心です。フロッピーもあつたらしいのですが高価でした。（次回続く）

(今週の情報誌から)

○日経エレクトロニクス 7月3日号

特集 フルカラーを超えて

→現在パソコンの画面表示は1677万色になっている。これは光の3原色であるR(赤)、G(緑)、B(青)のそれぞれに対してデータを1バイトづつ(トータル24ビット)割り与えた場合、各色が256階調となるためその3乗となると1677万色となることからであるが、より滑らかな画像と自然な発色を求めて30ビットカラーや36ビットカラーが登場してきている。

○日経パソコン 6月26日号

特集 PCの仕組み全解説

→ほとんどブラックボックス化しているPC。CPUのクロックはどうして処理に影響するのか、デュアルコアってどうなっているのか、新しいメモリはどう動くのかなど、考えもしなかったPCの仕組みを知って疑問をすっきりできれば?(次から次へと疑問が出てくる気もしますが)。

○日経SYSTEM 7月号

特集 セキュリティ被害からの復旧

→Winnnyなどによる情報漏洩事件があとを絶たない。インターネット上に情報が漏洩すると回収することは不可能。もちろん事前対策は必須となるが万が一発生した場合の事後対策を十分しておく必要がある。システムを導入するだけでなく、委員会の開催、緊急連絡網、対策フローは必須となる。